

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 2 区分

【発行日】平成22年8月5日(2010.8.5)

【公開番号】特開2009-10143(P2009-10143A)

【公開日】平成21年1月15日(2009.1.15)

【年通号数】公開・登録公報2009-002

【出願番号】特願2007-169772(P2007-169772)

【国際特許分類】

H 0 1 L 25/07 (2006.01)

H 0 1 L 25/18 (2006.01)

H 0 1 L 25/00 (2006.01)

H 0 2 M 7/48 (2007.01)

H 0 1 L 23/12 (2006.01)

H 0 1 L 23/14 (2006.01)

【F I】

H 0 1 L 25/04 C

H 0 1 L 25/00 B

H 0 2 M 7/48 Z

H 0 1 L 23/12 B

H 0 1 L 23/14 M

【手続補正書】

【提出日】平成22年6月17日(2010.6.17)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

金属基板と、  
前記金属基板の上に設けられた絶縁樹脂層と、  
前記絶縁樹脂層の上に設けられた配線と、  
前記配線の上に設けられた回路素子と、  
一方の端子が前記金属基板に接続され、他方の端子が固定電位に接続されたキャパシタと、  
を備え、  
前記金属基板は前記固定電位以外の電位に設定されており、  
前記固定電位以外の電位は電位変動する電位であることを特徴とする回路装置。

【請求項 2】

金属基板と、  
前記金属基板の上に設けられた絶縁樹脂層と、  
前記絶縁樹脂層の上に設けられた配線と、  
前記配線の上に設けられた回路素子と、  
一方の端子が前記金属基板に接続され、他方の端子が前記金属基板の電位を打ち消すような変動電位との間に接続されたキャパシタと、  
を備えることを特徴とする回路装置。

【請求項 3】

前記変動電位は、前記回路素子の電位の逆相であることを特徴とする請求項 2 に記載の

回路装置。

【請求項 4】

金属基板と、  
前記金属基板の上に設けられた絶縁樹脂層と、  
前記絶縁樹脂層の上に設けられた配線と、  
前記配線の上に設けられた回路素子と、  
前記金属基板の電位が変動したときに、前記金属基板に前記電位を相殺する電圧を付加して前記金属基板の電位を固定電位に維持する手段と、  
を備えることを特徴とする回路装置。

【請求項 5】

金属基板と、  
前記金属基板の上に設けられた絶縁樹脂層と、  
前記絶縁樹脂層の上に設けられた配線と、  
前記配線の上に設けられた回路素子と、  
一方の端子が前記金属基板に接続され、他方の端子が固定電位に接続された抵抗と、  
を備えることを特徴とする回路装置。

【請求項 6】

前記抵抗が基準電流以上の電流が流れたときに切断されることを特徴とする請求項 5 に記載の回路装置。